

ごあいさつ

「見渡せば知らないことばかりの世界。まずはゆっくり近づいてみよう」というコンセプトで上映したいドキュメンタリー映画を選び、2016年からこの映画祭を始めました。

会場は大和町吉岡宿の「にしじりかの美術館」。障害のある人たちの作品作りや展示の場、暮らしの場でもあります。年1回の開催を重ねてきましたが、2020年から新型コロナウイルスが大流行。3年間は仙台に会場を移し縮小開催しました。2024年、本来の場所で再開します。今年上映する作品は、生まれのルーツ、病気、過酷な体験などのまわりの人との「違い」を持っている人が映されています。「困難」や「絶望」はどこからやってくるのでしょうか。自分らしく生きられるその拠り所や手がかりは、どこにあるのでしょうか。足をお運びいただく皆さまと、感じたことを交換しあえたら幸いです。

プログラム

11/30(土)

10:50	アランラブソディ (~13:00)
13:00	上映後トーク「アランラブソディ」(~14:00)
14:50	映画上映「杏(はる)かなる」(~16:54)
17:00	上映後トーク「杏(はる)かなる」(~18:00)

12/1(日)

10:50	映画上映「生きて、生きて、生きる。」(~12:43)
13:30	映画上映「かづゑ的」(~15:29)
16:00	映画上映「アフター・ミー・トゥー」(~17:25)
17:30	アフタートーク(~18:30)

10:50~ アランラブソディ



東北初上映

©Kimoon Film

日本は1910(明治43)年に朝鮮半島を植民地支配し、「日本国籍」に移され、歴史も言語教育も日本語で行われることになりました。その後1947年に外国人登録令が出され、朝鮮人、台湾人は、戦後補償を受けることなく日本籍を外されることになりました。こうした歴史的事実さえ、ほとんどの日本人が知りません。なぜ日本に「在日韓国・朝鮮人」が暮らしているのか。彼女たちが日本社会の、どんな抑圧のなかで生きてきたのか。同じ日本に暮らす、在日1世、2世たちの「ラブソディ」が紐解かれます。(山内明美)

[監督] 金聖雄 2023年/125分/Kimoon Film



バリアフリー日本語字幕

13:00~ アランラブソディ 上映後トーク



金聖雄(キム・ソンウン) [監督] 1963年生まれ。大学卒業後、会社員・自営業を体験後、料理写真家の助手から助監督になる。1993年からフリーの演出家として活動。PR映像やドキュメンタリー、テレビ番組などを幅広く手がける。2004年から在日女性・冤罪事件のドキュメンタリー映画で受賞を重ね積極的に映像製作を続けている。Kimoon Film 合同会社社長。



朴秀子(パク・スジャ) [ゲスト] 1940年済州島で生まれる。2歳の時に日本に出稼ぎに来てた父を追うように母と姉と日本の大阪に渡る。中学生の時に学校に払うお金が無く工場で働く。仙台に嫁いで成人学校で朝鮮語を学ぶ。娘さんの任寧淑(イムニョンスク)さんとトークに登壇します。1日目は朝鮮料理の販売もあります。休憩時間やテイクアウトにどうぞ。



14:50~ 杏かなる



東北初上映

©映画「杏(はる)かなる」上映委員会

ALSという難病と向き合う当事者4人の姿を通じて、生きる意味を深く考えさせられるドキュメンタリー作品。徐々に身体機能と意思の伝達手段を失いながらも人間としての尊厳を守るための表現と行動を続ける姿や、近くで見守り支える人々との絆を温かな眼差しで描いています。その一方で病の進行によって「沈黙する人」にも焦点を当てており、他者に自分という存在をどこまで委ねられるのかという根源的な問いを私たちに投げかけています。(海子揮一)

[監督] 中央大裕 2024年/124分/「杏(はる)かなる」製作委員会



バリアフリー日本語字幕

17:00~ 杏かなる 上映後トーク



中央大裕 [監督] 主な作品に「犬と猫と人間と2—動物たちの大震災」、「風は生きよ」という、「道草」がある。現在「杏(はる)かなる」の公開準備中。東京と岩手の2拠点生活をおくり「クマと人の共存を探る」映画制作を進めている。



佐藤裕美 [出演者] NPO法人境を越えて 副理事長/防災ボランティア灯りの会 顧問 1971年東京都出身。ALS(筋萎縮性側索硬化症)当事者。地元でIKEBUKURO 難病カフェを立ち上げる。趣味は書くことと描くこと。



高橋 慎二 [撮影] 日本映画撮影監督協会正会員 映画、テレビで多くのドキュメンタリーの撮影に携わる。2008年、自主制作した『破片のきらめき』(監督・撮影を担当)でヴズール国際アジア映画祭【仏】観客賞/ドキュメンタリー最優秀賞を受賞。その他受賞作多数。

10:50~ 生きて、生きて、生きる。



©Nihon Denpa News Co.,LTD.

地震と津波、原発事故から13年経った今、福島県では遅発性PTSDが増え続けている。遅発性PTSDは沖縄戦でも見られたという壕壕医師は、福島で患者たちと向き合いその声に耳を傾ける。戦争と原発事故。いつも犠牲になるのは市民。そんな中でも献身的に支えようとする人々をカメラは映す。絶望の果てに…人は人でしか再生できないのかもしれない。(佐藤 真紀)

[監督] 島田陽磨 2024年/113分/日本電波ニュース社



バリアフリー日本語字幕

13:30~ かづゑ的



©Office Kumagai 2023

自分の体を撮って欲しい。かづゑさんは言いました。ここは瀬戸内海の長島にある国立ハンセン病療養施設。10歳からここで過ごしたかづゑさんは、島の至る所で思い出を語り始めました。かつて畑を耕した土地で、お花見をする桜の木の下で、伴侶の孝行さんと暮らす家で。この島の思い出を精力的に本に著し、魅力的な人柄でみんなを笑顔にするかづゑさん。その姿を温かく見つめた作品です。(阿部 典良)

[監督] 熊谷 博子 2023年/119分/オフィス熊谷



バリアフリー日本語字幕

16:00~ アフター・ミー・トゥー



© 2022 GRAMFILMS. ALL RIGHTS RESERVED

性暴力の被害体験を #Me Too というハッシュタグとともにSNSに投稿する運動は、韓国でも大きく盛り上がった。これらは構造的に繰り返される性暴力なのだ #MeToo は気づかせてくれた。私も。と声が聞こえ、向き合うことができた。「被害者」が世間や自分と対峙する痛みは尽きない。かつての熱気が落ち着いた #Me Too のその後を映すこれらの作品を観て、被害者が自分への信頼を取り戻すこと、性暴力をなくすこと、「性的同意」を考え続けることを、後押ししたい。(猪股 由美)

[監督] パク・ソヒョン、イ・ソミ、カン・ユ・ガラム、ソラム 2021年/85分/ストロール



日本語字幕

17:30~ アフタートーク

山内明美 [進行] にしじりかの映画祭実行委員/宮城教育大学准教授 南三陸町の生まれ育ち。にしじりか映画祭には今年から参加の門前小僧。地域戦略的な百姓として〈東北〉に生きることを画策中。主な著作に『子ども東北学』、『痛みの〈東北〉論』がある。

トーク にしじりかの映画祭実行委員会

